



取材協力 中村道則氏



句碑

荻原 井泉水

「コスモス寒く阿蘇は暮れずある空」

*井泉水自筆（ペン字）

句碑

種田 山頭火

「すすきのひかりさえぎるものなし」

*大山澄太書

句碑所在地

塘下旅館（内牧一区）

*昭和58年、大山澄太氏建立
*二つ同じ碑に刻まれています。

昭和4年11月3〜4日、井泉水と山頭火、そして井泉水の門下（「層雲」の同人）であった原農平、石原元寛、木藪馬酔木、高松征二、三宅酒壺洞、中村苦味生らは、阿蘇吟行のため内牧の塘下旅館に宿泊。当時阿蘇高等女学校の校長であった木村桑雨氏が出迎え、車で宮地周辺を案内しています。

一晚の内牧泊でありましたが「酒はうまいが別れはつらい」と言葉を残すほど同志で盛り上がった様子で、このことは、当時「九州新聞」に「阿蘇山行」として掲載されています。（俳句誌「層雲」にも掲載）。

たねだ さんとう か

種田山頭火 (1882~1940)

俳人。山口県防府市生まれ。家業の造り酒屋の倒産で熊本に移住。様々な困難で自殺を図ったところを報恩禅寺住職に助けられ寺へ入る。1925年に寺を出て、雲水姿で句作の旅に出る。放浪の俳人とも言われ、自由律俳句で著名。

おぎわら せいせんすい

荻原 井泉水 (1884~1976)

俳人。東京都生まれ。東京帝国大学を卒業後、新傾向俳句機関誌「層雲」を主宰。季語無用を主張するなど自由律俳句を提唱。



句碑

高浜 虚子

「秋晴の大観峰に今来り」

*虚子自筆

句碑

大久保 橙青

「鷹舞ふて阿蘇を遮るものもなく」

*橙青自筆

句碑所在地 大観峰

*平成15年、阿蘇町建立。虚子の碑は昭和33年に建てられたものを建て替えて、また橙青の碑は小国町の個人宅にあったものを移設し、同時に除幕しました。

阿蘇谷を望む大観峰に建ち、高浜虚子とその弟子の大久保橙青の師弟句碑として有名。

虚子の碑は昭和27年に初めて大観峰を訪れた際詠んだ句。橙青の碑は昭和26年に高野素十を案内した際に詠んだ句が彫られています。平成15年句碑の除幕式の際には盛大に記念俳句大会が行われています。



おおくぼとうせい

大久保橙青 (1903~1996)

俳人。熊本市生まれ。虚子を師とし活躍。「ホトトギス」同人会長を務める。

たかはまきよし

高浜虚子 (1874~1959)

俳人。愛媛県松山市生まれ。正岡子規を師とし俳句に情熱を注ぐ。新生「ホトトギス」を継承。近代以降の俳句界の巨星。日本俳句作家協会初代会長。昭和29年、俳人として初の文化勲章受章。